



日耳曼國貴族特別權利之事

1599



日耳曼國貴族特別權利ノ事

大正十一年四月



日耳曼國ニ於テハ往古ヨリ貴族アリ抑此ノ貴族ハ曾テ  
 軍功アル者或ハ領地ノ多キ者ヲ以テ漸次ニ其地位ニ列  
 セシメ而シテ特別ノ權利ヲ付與スルモノナリ之ヲ日耳  
 曼國ノ「アーデル」ト唱フ「刺甸語」ニテ「ベリタス」ト云フ千  
 六百年代迄ハ渾テ公伯ノ位ニ列スル貴族及ヒ寺院ノ僧  
 正ヲ以テ上等ノ貴族ト定ム即チ日本ノ華族ナリ公伯ノ  
 位ニ列セサル貴族但シ此ノ位階又數等アリ之ヲ合稱シ  
 テ「リットルト」ト云フヲ下等貴族ト定ム而シテ此ノ書中ハ專  
 ラ上等貴族ノ事ヲ掲記スルノミニシテ下等貴族ノ事ハ  
 之ヲ詳記セス夫レ往古上等貴族ノ權利タルヤ戰時ハ必  
 ス皇帝ノ左右ニ陪侍シテ軍兵ヲ指揮シ平時ハ國會ニ參  
 與シテ國政ニ干預スルモノナリ此ノ故ニ貴族若シ犯罪

大正十一年四月

アリテ裁判ヲ要スルキハ皇帝親ラ之ヲ宸断スルモノト  
ス尤モ死生名譽ニ関スル事カ或ハ其領地ヲ没収シ及ヒ  
之ヲ削褫スル等ノ最大事件ニ於テハ必ス同等ノ貴族審  
判ノ席ニ参坐シテ其罪蹟ニ保證スルニアラサレハ皇帝  
ト雖氏敢テ之ヲ宸断スル事ヲ得サルナリ

一 貴族ノ位階及ヒ領地ハ之ヲ其子孫ニ譲ルモノトス  
然レ雖氏其領地ヲ子弟ニ分典スルヲ得ス尤モ其子  
弟ハ當主同等ノ位ニ叙スルモノナリ千五百年代ヨリ皇  
帝ノ玉璽ヲ以テ下等貴族ヲ上等貴族トナシ或ハ平民ヲ  
貴族トナスヲ得ルニ依リ領地ナシト雖氏公伯男ノ位ニ  
叙スルヲアリ而シテ此ノ年代ヨリ日耳曼帝國亡ヒシ迄  
ハ貴族ノ差等七領地ノ有無ヲ論セス渾テ上下二等ニ分  
テ以テ其權利ヲ別シテ左ノ如シ上等貴族ハ國會ニ参典

テ其議事ニ干預ス又領内ノ政治ヲ獨決專行スルヲ得  
之ヲ皇帝ノ直臣ト尊稱ス又此ノ直臣ヲニニ分ツ一ハ國  
家ノ政治ヲ執行スルノ權アルモノニハ國家ノ裁判所及  
ヒ行政官ノ議事ニ参典スルノ權アルモノヲ云フ但シ此  
ノ權ヲ有セサル者ヲ以テ即テ下等ノ貴族トス  
往古ハ日耳曼國ノ人民ヲ三等ニ大列ス一ハ貴族上等下  
等ニ分テ二ハ自由ノ權ヲ有スル平民ヲ云ヒ三ハ自由ノ  
權ヲ有セサル平民ヲ云フナリ  
千八百六十年日耳曼帝國亡ヒシ中上等貴族ナルモノ各地  
ニ割據シテ獨立國主トナシ而シテ勢カノ弱キモノハ其  
領地ヲ掠奪サレテ之ニ從屬スルアリ爾後「ライシ」川聯邦  
締盟ノ片ニ於テ旧日耳曼帝ノ直臣タル上等貴族ナルモ  
ノハ這回更ニ新國主ノ直臣トナルト雖氏從前ノ位ヲ剥

奪セサルヘキノ旨ヲ結約セリ其首旨即チ尤ノ如シ

舊日耳曼帝直臣ノ貴族ハ千八百六年ヨリ更ニ獨立國  
ノ直臣トナルニ依リテ當時ノ政体ニ基キ其家格ヲ公  
平ニ定ムルモノナリ

公伯ノ家ハ旧ニ依リ以来日耳曼國ニ於テ上等貴族ト  
シテ而シテ従前ノ通り門閥同等ノ身分ニ準ス但シ

此ノ後千八百二十五年七月十三日

アーケン地名ニ於テ

五ヶ國ノ帝王集會ノ節前項ニ基キテ又尤ノ條約ヲ定ム  
即チ

舊直臣ノ家ハ門閥同等ノ身分ナルニ依リ之ニ相當ノ  
位階并ニ其尊稱ヲ與フルヲ允當ナリトシテ公ノ家ニ  
ハ「ドルク」ヲウケルノ尊稱ヲ與フルトニ決定ス

千八百二十九年二月十二日ニ至リ尚ホ再議シテ又條約

ヲ定ムルト尤ノ如シ

公ノ家ニハ「ドルク」ヲウケトノ尊稱ヲ與ヘシニ依リ旧  
直臣伯ノ家ニシテ當時其當主ナルモノヘハ「エール」ヲ  
ウケトノ尊稱ヲ與フルトニ決定ス

但シ千八百六年日耳曼國亡シキ皇帝ノ直臣上等貴  
族并ニ従前直臣ノ領地ヲ當時領収セシ上等貴族ヲ  
云フ

舊皇帝ノ直臣ナル上等貴族ハ當時獨立ノ國主ト従属ノ  
君主トニ分ルト雖モ此ノ章ニ於テハ國主ノ事姑ク措テ  
之ヲ論セス偏ニ君主ノ事ヲ説明スルモノナリ而シテ現  
今ニ至テハ往古ノ如ク寺院ノ僧正ヲ以テ上等貴族ニ列  
スルトアルナシ

上等貴族ハ自ら其族籍ヲ離ル、一ヲ得或ハ之ヲ奪除セラル、一アリ即チ厄ノ如シ

一 當主一身ハ自由ニ其族籍ヲ離レテ民籍ニ入ル一ヲ得ヘシ然ル後出生ノ子孫ハ旧籍ニ復スル一ヲ得ス

犯罪ノ事件ニ依テハ國法ニ基キ其族籍ヲ奪除スル一ヲ得ヘシ

三 領地所有ノ貴族子弟ナキハ其領地ヲ賣却シ或ハ之ヲ奉還シテ其籍ヲ離ル、ヤ否ハ未夕曾テ之ヲ論定セス

四 貴族ノ女子ニシテ平民ニ嫁嫁セシモノハ其籍ニ編入ス、キモノトス

往古帝國ノ時ハ上等貴族ノ權利一般ノ定規アルト雖モ

各國獨立ノ國主起リセシ後ハ其法各異同アリモ左ノ權利ハ各國ニ於テ概テ相同シキモノナリ

一 門閥同等權利ノ事

二 住所自由權利ノ事

三 世継并ニ領地ヲ自由スヘキ權利ノ事

千八百十五年日耳曼聯邦締盟ノ片條約書第十四條ヲ以テ權利ヲ與ヘタリ

領地所有ノ上等貴族ハ國會ニ參與スヘキ權利ノ事

二 領地内ノ訴訟刑獄、審判スヘキ權利ノ事但シ下等或ハ中等ノ裁判所ヲ云フ

三 同断山林取締權利ノ事

四 同断巡查ヲ配設スヘキ權利ノ事

五 同斷寺院ノ住職ヲ與奪スヘキ權利ノ事  
六 上等貴族ハ別格ノ裁判所ニ於テ裁判ヲ受クヘキ  
權利アル事

此ノ法ハ日耳曼聯邦締盟ニ於テ決定セシ憲法ナル  
ニ依リ爾後聯邦解盟ノ後ハ此ノ法往々紊亂シテ行ハレ  
サハモノアリ故ニ各國各其國法ニ準據シテ憲法ヲ定ム  
ト此ノ左ノ條件ハ各國ニ於テ概テ相同シキモノナリ  
一 各國ニ於テ旧日耳曼帝ノ直臣ナル貴族ハ貴族中  
ノ上席タルヘキ事但シ議院即チ上院出院ノキモ  
同斷  
二 租稅ヲ納メサル格別ノ權利但シ稅額ノ幾分ヲ納  
メ或ハ全ク納メサルモノヲ云フアルモノハ上等  
貴族同斷ノ身扱ヲナスヘキ事

三 住所自由ノ事

但シ外國ニ在留シテ其國ノ文武官ヲ奉務スルヲ  
得

四 陸軍ノ兵役ニ服セサル權利ノ事

五 世継并ニ其領地自由スヘキ權利ノ事

六 行政權利ノ事但シ下等行受ヲ云フ尤モ立法ノ權

ハ此ノ限ニアラス

三 身體并ニ領地ノ事件ニ就テハ別格ノ裁判所ニ於  
テ裁判ヲ受クヘキ權利アル事

上等貴族ノ權利中一家交際ノ權利并ニ婚姻ノ事及ヒ後  
見ノ事ハ姑ク譯述スルヲ要セサレハ今茲ニ之ヲ省略シ  
專ラ其土地ニ關係シタル事ヲ説明セン為メ左ノ如ク持  
地ノ種類ヲ詳譯スルモノナリ

一 「アロウデ」ノ持地之ハ世々相續ノ土地ニシテ自由ニ之ヲ賣買シ或ハ他へ讓渡ス「」ヲ得ヘキモノナリ

一 「レ」ヘン「」ノ持地「羅甸語」ニテ「フエドゥム」ト云フ「」往古兵役ノ為メニ典ヘシ籍土ニシテ世々子孫ニ傳ル「」ヲ得ヘキモノナリ尚ホ後條ニ詳ナリ

一 「」イ「」コ「」ミス「」ノ持方之ハ一家永續ノ為メニスル持地ノ法ニシテ自由ニ之ヲ賣買シ或ハ他へ讓渡ス「」ヲ得サルモノナリ尚ホ後條ニ詳ナリ

此外亦左ノ權利ヲ有セリ

一 「」ラ「」ン「」デ「」ス「」ホ「」ー「」ハ「」イ「」ト「羅甸語」ニテ「ユス」テ「レ」リ「」ト「」リ「」ア「」ー「」レ「」ト「」云「」フ「」之「」ハ「」支配地行政ノ權利ヲ云フナリ

一 「」レ「」ー「」ガ「」エ「」レ「」之「」ハ「」國主ノ持「」干「」ヲ「」以「」テ「」與「」ヘ「」シ「」收「」得「」ノ「」權利「」云「」フ「」仮「」令「」ヘ「」ハ「」鑛山開鑿ノ權利或ハ田漁ノ權利等ナリ

一 「」レ「」ン「」テ「」ン「」之「」ハ「」權利ヲ以テ元支配地ヨリ収得スルモノヲ云フ「」即チ日本ノ年貢并ニ元金ヨリ生スル利子ノ事

前「」而「」シ「」テ「」耳「」曼「」帝「」國「」亡「」シ「」際「」各「」地「」割「」據「」ノ「」國「」主「」上「」等「」貴「」族「」ヲ「」云「」フ「」記「」立「」セ「」シ「」ヨ「」リ「」皇「」帝「」ノ「」權「」限「」渾「」テ「」國「」主「」ノ「」權「」内「」ニ「」歸「」セ「」リ「」尤「」モ「」籍「」土「」ノ「」事「」ニ「」就「」テ「」ハ「」從「」前「」帝「」國「」ノ「」時「」ト「」相「」異「」ナル「」ト「」ナ「」シ「」故「」ニ「」之「」ヲ「」其「」子「」孫「」ニ「」傳「」フ「」ル「」ヲ「」得「」ル「」ト「」雖「」氏「」固「」ヨ「」リ「」私「」有「」地「」ニ「」非「」サ「」ル「」ヲ「」以「」テ「」旧「」ノ「」如「」ク「」籍「」土「」ノ「」名「」稱「」ヲ「」存「」有「」セ「」リ「」若「」シ「」其「」籍「」土「」ヲ「」領「」セ「」シ「」者「」家「」系「」斷「」絶「」ス「」ル「」ト「」ア「」レ「」ハ「」此「」地「」面「」復「」歸「」レ「」テ「」全

ク、公有地トナルモノナリ  
アロウデノ持地ハ右藉土ノ外世々相續ノ土地ニシテ其  
持方ハ日耳曼國法律ニ於テ持主ノ自由ニ任スト雖氏各  
其家法ト慣習法トニ隨ヒ相續ノ為メニ定メレ契約アル  
ヲ以テ此權限ヲ犯ストヲ得サルモノナリ故ニ此地面并  
ニ家名永續ノ為メスタムゲト及ヒヒイデコミスト云フ  
ニ様ノ持方アリスタムゲトトハ一家資産ノ為メニスル  
持方ヲ云フナリ而シテ此持地アル貴族ハ平民ト異ナリ  
男子ニアラサレハ必ス該家ヲ相續セシムルヲ得ス但  
シ男子ト雖氏生母門閥同等ノ血統ニ非サレハ相續スル  
ヲ得サルモノナリ是ニ於テ女子ハ結婚ノ際必ス相續セ  
サルトモ昔ヲ書記シテ其契約ヲナシムヘシヒイデコ  
ミストトハ一家ノ續ト為メニスル持方ヲ云フ而シテ此持

地法ハ專ラ一等貴族ニ於テ行ハレ、キノナリ此故ニ  
或ル貴族ノ持地從前ヨリヒイデコミストノ定メナシト雖  
氏國ニハ申請シテ其持地ヲヒイデコミストト為ストヲ得  
ヘシ而シテ既ニヒイデコミスト定マリタル土地ハ之ヲ  
賣買シ或ハ他ヘ譲渡ストヲ得ス尤モ世繼ノ者アルキヲ  
云フ假令若シ之ヲ賣買シ或ハ他ヘ譲渡ストアルト雖氏  
此條約ニ依テ全ク無用ニ屬スルモノナリ又ヒイデ  
コミストノ持方ハ特リ地面ニ限ルニアラス金銀并ニ器品  
及ヒ各種ノ收入物ヲ以テヒイデコミストトナシ又ハ後來  
或ル他ノ家名斷絶シテ其財産ヲ讓受ル片ハ之ヲ合セテ  
ヒイデコミストト為スヘキヲ豫メ定メ得ヘシ而シテ此  
ヒイデコミストノ相續ハ各家法ニ隨テ之ヲ定ムルヲ例ト  
ス但シレヘシノ藉土モヒイデコミストニ為スヲ得ヘキ



モノナリ

前述ノ如ク上等貴族ハ往古ヨリ各種ノ土地ヲ領有シ又各種ノ高ヲ收入シ而シテ政治ノ權利ヲ有セリ然ルニ千八百六年皇帝ノ直臣タルヲ廢シ更ニ國主ノ直臣トナリシニ至テ其權限ハ減削スルヲアリト雖モ地面ノ持方ニ於テハ從前ト毫モ變異スルヲアルナシ即チ左ノ如ク

一 從前領有セシ各種ノ土地ハ旧ノ如ク之ヲ所恃セシムル

二 國主上等ノ政權即チ立法ノ權、巡查配置ノ權、兵權、財政ノ權、及ヒ外國交際ノ權等ヲ云フニ支吾セサル下等行政ノ權利ヲ典フル即チ中等下等裁判ノ權利、刑事裁判ノ權利、山林取締ノ權利、河魚

ノ權利、山開鑿ノ權利、作物ノ分一ノ高收ヘノ權利、其他從前人民賦役ノ權利、寺院住職典奪ノ權利等ヲ云フ

三 前條其持地ヨリ生スル高并ニ權利ノ為メニ他ヨリ得ル所ノ物ハ渾テ從前ノ如ク之ヲ收入セシムル

地面持テノ事ニ就テハ從前ト變異スルヲナキニヨリ上等貴族ノ家ハ今尚ホ繁盛セリ尤モ政治ノ權ハ往々之ヲ表遺ルモノアリ或ハ國法ニ隨テ之ヲ減削シ或ハ之ヲ亡失スルモノアリ又千八百四十八年日耳曼國顛覆ノ時ニ於テ一時貴族ノ位階ヲ廢シ四民同等ノ權利ニ歸セシムルト雖モ爾後亦旧ノ如ク復歸セリ但シ之ハ各國ニ於テ各異同アリ然レモ此權限ハ議院ノ論議ト政令ヲ一ニ

大義

師セシトントノ為ニ往々彼此増減スルヲアリ故ニ實際  
權利ノ制限ハ充分判明ナラシムルヲ能ハサルヲ以テ爰  
ニ之ヲ詳記スルヲ得サルモノナリ

亞歷山德矢伊勃兒寫 譯講  
古 賀 保 高 筆次  
神 浦 通 章 筆次

